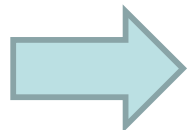


- 平成28年度の橋梁点検で実施した、点検・補修における好事例・気づきについて事例紹介

## 【紹介内容】

- ① 予防措置事例（石川県）
- ② 予防保全事例（石川県）
- ③ 予防保全事例（NEXCO中日本）
- ④ 日常管理事例（石川県）
- ⑤ 緊急報告事例（金沢河国）

- ①（防錆処理）点検時に、鉄筋が露出されている箇所に対して、防錆剤により簡易補修を行うことで、損傷の進行を遅らせることができた。



防錆剤 措置後



## 【気づき】



床版下や桁端部など、様々な部材で、鉄筋の露出が見られる

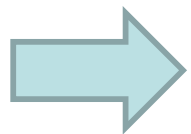


本格的な補修工事までの間の対策をどうするか

## 【評価の理由】

- 損傷を発見し、その対策を施すことで構造物の健全性を確保できる
- 早期に措置を行うことにより、第三者被害を未然に防ぐことができる




②（支承部の清掃）点検に支障となる堆積土砂を撤去することにより、支承周りや桁端の環境が改善され橋梁の予防保全が図れた。



清掃後



## 【気づき】

-  支承上に堆積した土砂の乾湿により支承が腐食している
-  日常の道路パトロールでは、目が行き届き難い箇所である
-  手が届かないため、清掃が困難

## 【評価の理由】

- 支承周りの堆積土砂を除去することで、早期に腐食が発見できた
- 目が届かない箇所であるため、気づかずに放置しておくと腐食が進行し、大変危険である
- 重篤な損傷の早期発見により、速やかな対応が可能となり、構造物の健全性を確保できる

## ③桁端洗浄による塩害の抑制（予防保全）



### 【気づき】



凍結防止剤を多く散布するため、塩分が橋梁に付着している。



塩害による損傷を少しでも軽減させたい。

### 【評価の理由】

- 予防保全の観点から、春に桁端洗浄を実施し、劣化の進行を抑制
- △ 鉄道交差部等で実施できない場所もある。



- ④（集水柵の清掃）交通量が多く路肩が狭い跨線橋の集水柵を清掃することで、路面排水や伸縮部の環境が改善され、橋梁の予防保全が図れた。



## 【気づき】



集水柵の目詰まりにより、排水不良となっていた



凍結により第三者被害を及ぼす恐れがあった



交通量が多く、路肩も狭いことから日常点検が困難

## 【評価の理由】

- 集水柵の清掃を実施することで、損傷の進行を防ぐことができた
- 伸縮部への悪影響（土砂溜まりや乾湿）を、軽減することができた
- 点検時の交通規制と合わせて実施することで、作業の効率化が図れた

- ⑤（床版の損傷）橋梁点検時にコンクリート床版の損傷が進行している兆候を確認し、道路管理者へ緊急報告。別途、詳細調査を行い床版の損傷状況や原因を詳細に把握し、応急措置や今後の対応に役立てた。



## 【気づき】



舗装の土砂噴出や床版下面の亀甲状ひびわれは重篤の兆候。



近接目視および打音調査は損傷を確認する重要な手段。



原因推定や対策を検討する上で、点検結果の記録は重要。

## 【評価の理由】

- 点検終了や補修工事まで待てない重篤な損傷に対して、応急対策を実施。
- 詳細調査を行うことで、より効果的な維持管理が実現。
- パトロールでは容易に見ることができない箇所の確認が可能。